


ホームページで  
ご覧になれます  
一般質問の質疑  
問・答の全文は  
こちらからご覧  
になれます。




### その他の主な質疑・質問

- ネーミングライツの導入について
- さらなる子供の貧困対策を 子供の貧困の実態調査を定期的を実施すべきではないか
- 医療的ケア児の支援について
- 県内農業を基軸とした、食料自給社会の早期実現を 自給社会構築に向けた県の取り組みとランドデザインについて
- あと数マイルプロジェクトと地域交通への支援について 埼玉高速鉄道に関する地元市への影響
- 社会保障の削減や物価高から、生活困窮者を守り子育て応援の施策の充実を
- テレワークの促進について テレワークの環境整備に取り組む市町村への支援
- 新型コロナウイルスワクチンの副反応について 副反応の実態把握と公表、周知、対策を
- 保健所の体制整備、過剰に負荷がかかる人員からの業務の引き剥がしについて
- 頻発する豪雨災害について 今後の治水対策
- 貧困の連鎖を断ち切るためにも子供の教育を 大学受験費用の補助について
- 地域公共交通政策について
- 県職員の能力を活かすために 若手退職を食い止める対策を
- 部活動の地域移行について 部活動の大きな転換点としての地域移行
- 医療提供体制の充実のための取り組みについて

### 用語解説

- ※1 消防の広域化  
市町村が消防事務(消防団の事務を除く)を共同して処理することまたは市町村が他の市町村に事務を委託することにより、スケールメリットを生かし消防体制を強化すること。
- ※2 MCI  
健常者と認知症の中間にあたる、Mild Cognitive Impairment(軽度認知障害)のこと。認知機能に問題が生じているが、日常生活に支障がない状態のこと。
- ※3 ばれっとるーむ  
戸田市の不登校対策の一環として、不登校傾向のある児童等の居場所を確保し、早期の支援につなげることを目的に、小学校内に設置された。
- ※4 農地中間管理事業  
リタイアする農業者の農地や地域内で分散している農地などを農地中間管理機構が借り受け、基盤整備などを実施し、担い手がまとまりのある形で農地を利用できるよう貸し付ける事業のこと。
- ※5 明日の農業担い手育成塾  
市町村、農協、農業委員会、県農林振興センターなどが一体となって技術研修・農地の確保・資金相談などを行い、自立農業経営を目指す新規就農希望者が希望地で就農できるよう支援する制度。
- ※6 レジリエンス  
困難な状況でもうまく適応する能力のこと。災害対策においては、「災害対応力」と同義で使われる。
- ※7 PDCAサイクル  
行政政策や企業の事業活動にあたって計画から見直しまでを一貫して行い、さらにそれを次の計画・事業に生かそうという考え方。具体的には、「Plan(計画)」「Do(実行)」「Check(評価)」「Action(改善)」の4つのプロセスを繰り返す。

### 県議会広報テレビ番組

## 「こんにちは県議会です」

県議会に関するさまざまな情報を分かりやすく紹介しています。  
番組の最後にはプレゼントコーナーもあります。ぜひご覧ください!

#### 今後の放送予定

#### 特別委員会だより②

11月13日(日曜日)午前10時から

#### 特番 新春インタビュー

令和5年1月1日(祝日・日曜日)  
午前10時から30分間の拡大版!

議長、副議長、主要会派代表者が新年の抱負などを語ります。



詳しい放送スケジュールは、随時ホームページでお伝えいたします。



ぜひ、ご覧ください!!



県議会マスコット「ポッポ」

本会議の様子はインターネット中継でご覧になれます。左からアクセスできます。

### 安心・安全

#### 保育所、幼稚園等送迎バスでの置き去り防止対策について

**Q** 今年9月、静岡県静岡県の認定こども園の送迎バスに置き去りにされた子どもが熱中症で死亡する大変痛ましい事故が起きた。人員配置の増員補助、安全装置やセンサーの設置補助などの対策も必要だと考える。保育所、幼稚園など送迎バスの置き去り防止対策について県の考えを伺う。

**A** 今回の事故は必ず行われなければならないミスを防ぐ安全装置やデジタル技術も活用し、重層的に園児の安全確保を図るべきと考える。効果的な事例の情報提供や横展開も検討し、同様の事故が二度と発生しないよう対策を講じる。

### 農業

#### 農業の2025年問題について

**Q** 世界規模で人口が急激に増加し続けている。どこかの国でも食料安全保障は最優先の課題だが、大きな壁となるのが農業の2025年問題だ。団塊の世代が全て75歳以上となり、新規就農者も増えていかない。この問題をどう捉え、どのような手段で解決していくのか。所見を伺う。

**A** 農業者の高齢化対応として、スマート農業や作目転換で労力軽減を図り、今後の農業生産維持に向けて、法人化や農地中間管理事業(※4)による農地集約を進める。また新たな担い手確保育成に向け「明日の農業担い手育成塾」(※5)で就農を支援し、企業の農業参入も推進する。

### 環境

#### 「下水汚泥」を資源に転換するために下水汚泥の肥料化に取り組むべき

**Q** 化学肥料の高騰を受け、下水処理過程で生じた汚泥を肥料に転換する事業が注目されている。化学肥料と比較し相当安価で、海外に依存しない循環型農業につながる。また、処理コストの削減、CO<sub>2</sub>の削減も図れる。本県でも市内で連携し、積極的に取り組むべき。所見を伺う。

**A** さまざまなメリットが期待でき、下水汚泥の肥料化にチャレンジしたい。まずは県北地域で試験製造を実施し、市内で連携を深めながら、安全性や効果の検証、農家へのアピールなどを進める。結果を踏まえ、本格的な肥料化施設の導入も検討し、循環型農業の実現に貢献していく。

#### 災害時のレジリエンス(※6)という観点からのEVの普及

**Q** 今回の補正予算でEV(電気自動車)など電動車への補助を計上している。CO<sub>2</sub>排出量削減はさることながら、非常用電源の確保に使い、災害時のレジリエンス機能を強化するという観点から必要である。補正だけで終わらせるのではなく継続的に支援していくべき。

**A** 令和元年の台風15号による大規模停電で電動車を非常用電源に活用した事例がある。今回の補助制度では、外部給電機能を備える車両を対象とし、災害時の自治体への協力を補助要件とした。継続的な支援については、事業効果や県民ニーズなどを見極めつつ検討していく。

### 観光

#### サイクルツーリズムの推進について

**Q** 自転車を使った観光・サイクルツーリズムは、比較的平坦で多彩な魅力を持つ本県の特性を活かせる。健康や脱炭素社会構築にも寄与し、地域愛にもつながる。県内外の利用者数など指標を設定し、PDCAサイクル(※7)で進めたい。また、サイクルツーリズムツアーを実施すべき。

**A** 本県の観光振興策として自転車の有効な活用策を研究し、具体的な事業を構築していきたい。その上で有効な指標設定も検討していきたい。また、受け入れ態勢の整備や魅力ある企画にできるかなどの課題を踏まえ、サイクルツーリズムツアー実施の具体的な方策を検討する。